

たまいたま 川柳



豪雪

巻頭言

変わるということ

願法みつる

全日本川柳協会通信誌の一月号で、理事長大野風柳氏が「年頭に思うこと」の中で述べて居られる。

「川柳という文芸は、時代とともに変わっていかねばならぬと私は真剣にそう思っています。しかし、(中略) 変わらないものがあるのです。この変わらないものと、変わったものと言うよりも変わらなければならぬと言うべきでしょう。この二つのものを大切にしたいと思うのです。この二つが、現在活動している川柳人の大きな仕事ではないでしょうか。」まさに重い言葉ではある。

様々な柳歴・立場の川柳人も、等しく同じことを考えあるいは感じて居られるのではないだろうか。

世界諸国と同様に、わが国の姿勢や政治の進め方にも変革が求められ進んでいる。しかし、臆病な国民は保守を恥とは考えない。文芸世界も同じだ。ブレイクスルー(守旧的な常識からの改革)には、勢いとエネルギーが必要である。変化を求める若さが期待される。伝統という柵をすべて裏返す必要はないが、斬新・奇抜な思考への挑戦を、快く迎え入れたいものだ。

次代には「改革という変化」が、否応なく打ち寄せてくる。今、マンネリ化した大会の在り方も話題だ。時代が変わりつつある波動を、心に感じるこの頃である。

日日是好

願法みつる

人類の倦むことなしに波頭

言霊の血筋に二十一世紀

泣いてたまるか昭和期の男唄

天も地もヒトよりジンを朋とする

納豆のような世間の意気地なし

天麩羅のような政治が胃にもたれ

次の世へオウンゴールは許されず

若武者が踏んづけて行く老いの背

長生きも程があるぞとあの世から

平成27年

3月号 (No.664)

日川協加盟